

高等学校学習指導要領解説Q&A

地理歴史科



教
如

教えることは学ぶことである

学び続ける教職員に



鹿児島県総合教育センター

学習指導要領解説Q & Aについて

平成30年3月に公示された学習指導要領について、「教科の『見方・考え方』を働かせる授業って?」「知識の理解の質を高めるとは?」といった先生方の疑問や知りたいことなどを、教科等別にQ & A形式でまとめました。

このQ & Aは、改訂された学習指導要領がこれまでとどんなところが変わったのかを中心にまとめています。



1 ダイジェスト

見開きで改訂のポイントをまとめてあるので、教科等の授業を行う上で大事なことは何かがすぐに分かります。

2 Q&A

コラム欄やワンポイントアドバイス、図、表などを取り入れ、分かりやすく読みやすい内容で解説しています。

Q5 内容8の食生活「(2)調理の基礎」で、ゆでる材料、じゃがいもなどと指定されたのは、なぜですか。

A5 ゆでる材料として、水からゆでるものと沸騰してからゆでるものゆでることによってかさが増えるものは、多くの量を食糧することがで調理の特性を理解できるようにするためです。

「教科等の目標や内容」、「主体的・対話的で深い学びの授業改善」等について、Q & A形式で分かりやすく解説しています。

ここには、「答え (Answer)」に係る補足説明や参考資料などが掲載してあるので、「答え」の理由や根拠などが分かります。

3 活用法

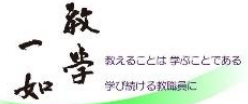
日頃の授業や校内研修、市町村教育委員会や教育事務所主催の研修会、教科等別の教育研究会等で是非活用してください。必要な部分だけでも印刷・ダウンロードできます。

目次

高等学校学習指導要領解説地理歴史編ダイジェスト

- Q1** 今回の改訂の基本方針を教えてください。…………… 1
- Q2** 地理歴史科の目標はどのように示されていますか。…………… 2
- Q3** 課題を追究したり解決したりする活動とはどのような活動ですか。…………… 4
- Q4** 地理歴史科における「社会的な見方・考え方」について教えてください。…………… 5
- Q5** 地理歴史科の科目構成はどのように変わりましたか。…………… 7
- Q6** 「地理総合」はどのような科目ですか。…………… 8
- Q7** 「地理探究」はどのような科目ですか。…………… 10
- Q8** 歴史領域科目の学習指導の改善・充実の要点を教えてください。…………… 13
- Q9** 「歴史総合」はどのような科目ですか。…………… 14
- Q10** 「日本史探究」はどのような科目ですか。…………… 18
- Q11** 「世界史探究」はどのような科目ですか。…………… 22
- Q12** 他教科等との関連について留意することを教えてください。…………… 26
- Q13** 移行期間の学習指導はどのようにすればよいですか。…………… 27

高等学校地理歴史科改訂のポイント



高等学校地理歴史科は、大きく改訂された教科の一つです。以下、改訂のポイントを挙げました。



どのような学びの過程を通して、どのような資質・能力を育成するのかを明確化

地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

学びに向かう力、人間性等

育成を目指す
資質・能力

広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な**公民としての資質・能力**

知識及び技能

現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

社会的な見方・考え方を働かせ、**課題を追究したり解決したりする活動を通して**

求められる
学びの
過程

課題を追究したり解決したりする活動については、単元など内容や時間のまとまりを見通して学習課題を設定し、諸資料や調査活動などを通して調べたり、思考、判断、表現したりしながら、社会的事象の特色や意味などを理解したり社会への関心を高めたりする学習などを指しています。

課題把握

① **学習課題を設定する**
社会的な事象等を知り、気付きや疑問を出し合い、課題意識を醸成する。



② **課題解決の見通しをもつ**
課題解決に向けて、予想や仮説を立て、調査方法や追究方法を吟味し、学習計画を立てる。

③ **情報収集**
予想や仮説の検証に向けて、様々な種類の資料を活用して調べながら、他の生徒と情報を交換する。



④ **考察・構想**
社会的な事象等の意味や意義、特色や相互の関連を、話し合いや討論などを通して多面的・多角的に考察するとともに、社会に見られる課題を複数の立場や意見を踏まえ、解決に向けて選択・判断することにより、解決策を構想する。

⑤ **まとめ**
考察したことや構想したことをレポートなどにまとめる。結論について他の生徒と話し合う。



⑥ **振り返り**
自分の調べ方や学び方、結果を振り返り、その学習成果を他者に伝えたり、新たな問い(課題)を見いだしたりする。

その際、**社会的な見方・考え方を働かせ**ることが大切です。

地理領域科目 「地理総合」、「地理探究」

◎社会的事象の地理的な見方・考え方

社会的な事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること

歴史領域科目 「歴史総合」、「日本史探究」、「世界史探究」

◎社会的事象の歴史的な見方・考え方

社会的な事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること



必履修科目として「地理総合」及び「歴史総合」を新設するとともに、発展的に学習する選択科目として「地理探究」、「日本史探究」及び「世界史探究」を設置

高等学校においては、社会で求められる資質・能力を全ての生徒に育み、生徒一人一人を生涯にわたって探究を深める未来の創り手として送り出していくことが、これまで以上に重要になっています。

そこで地理歴史科の科目構成としては、このうちの、社会で求められる資質・能力を全ての生徒に育むという観点から、「地理総合」と「歴史総合」が、いずれも必履修科目として位置付けられるとともに、これに加えて、生徒一人一人を生涯にわたって探究を深める未来の創り手として送り出していくという観点からは、「探究」をその科目名に含む「地理探究」、「日本史探究」及び「世界史探究」が、生徒自身の興味・関心を踏まえて学ぶ選択科目として設置されました。

地理総合	持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察することに加えて、グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を、地域的な視座から防災などの諸課題への対応を考察することと、地図や地理情報システム（GIS）などを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得することの三点を主要な特徴として構成。
地理探究	「地理総合」の学習を前提に、地理の学びを一層深め、生徒一人一人が「生涯にわたって探究を深める」その端緒となるよう、系統地理的学習、地誌的学習を行う各大項目の学習によって地理学の体系や成果を踏まえた上で、最後に我が国の地理的な諸課題を探究する大項目を設けて科目のまとめとして構成。
歴史総合	「世界史A」、「日本史A」が近現代史を中心に扱い、相互に日本の歴史との関連付けや世界史的な視野に立って学ぶことを重視してきたことや、「世界史B」、「日本史B」が歴史的な思考力の育成を重視してきたことなど、従前の歴史領域の科目のねらいを総合的に踏まえて設置。
日本史探究	「歴史総合」を踏まえ、従前の「日本史A」、「日本史B」のねらいを発展的に継承しつつ、我が国の歴史の展開について総合的な理解を深め、各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察し、（中略）現代の日本の諸課題とその展望を探究する力を養うことをねらいとして設置。
世界史探究	「歴史総合」を踏まえ、従前の「世界史A」、「世界史B」のねらいを発展的に継承しつつ、（中略）世界の歴史の大きな枠組みと展開について理解を深め、地球世界の課題とその展望を探究する力を養うことをねらいとして設置。

必履修科目
標準単位数
は2単位

地理総合

持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する。

歴史総合

近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉え、資料を活用しながら歴史の学び方を習得し、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察、構想する。

必履修科目で育んだ資質・能力を用いて、さらに専門的な視野から、社会的事象を広く深く探究

選択科目
標準単位数
は3単位

地理探究

系統地理的な考察、地誌的な考察によって習得した知識や概念を活用して、現代世界に求められるこれからの日本の国土像を探究する。

日本史探究

我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、現代の日本の課題を探究する。

世界史探究

世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、事象の意味や意義、特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、地球世界の課題を探究する。

「地理総合」を履修した後に履修

「歴史総合」を履修した後に履修

Q1 今回の改訂の基本方針を教えてください。

A1 これからの社会で求められる資質・能力を明確化し、それを確実に育成するために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることなどが改訂の基本方針として示されています。

◆ 育成を目指す資質・能力の明確化

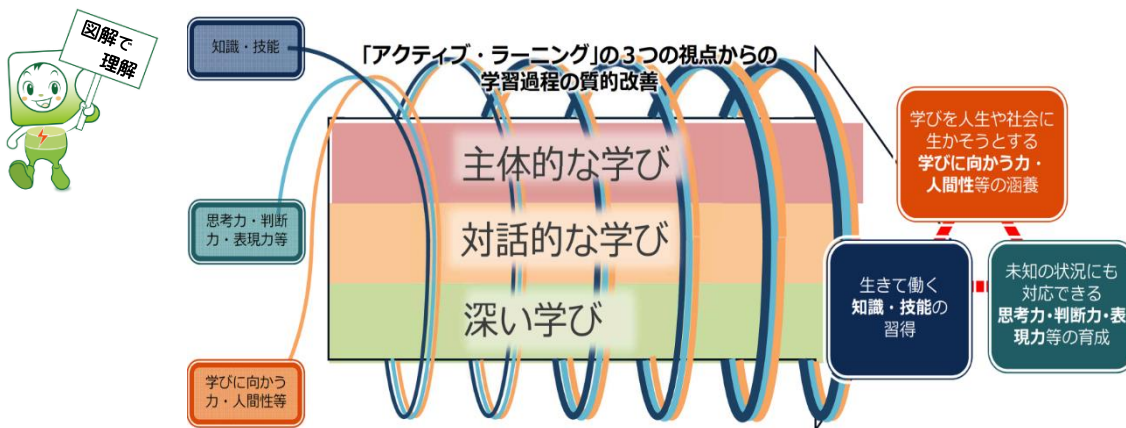
新学習指導要領は、社会の現状と将来の予測を踏まえて、生徒たちに育成を目指す、これからの社会で求められる資質・能力を、次の三つの柱で整理しています。

- (1) 生きて働く「知識及び技能」の習得
- (2) 未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成
- (3) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養

地理歴史科の目標や内容もこの三つの柱に基づき再整理されています。

◆ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

生徒が、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするために、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが強く求められています。その際の視点が「主体的・対話的で深い学び」です。



主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

Q2 地理歴史科の目標はどのように示されていますか。

A2 育成を目指す「公民としての資質・能力」を三つの柱により明確にしつつ、その育成を目指すに当たり、生徒がどのような学びの過程を経験することが求められるかも一体的に示されています。

◆ 地理歴史科の目標

<p>a 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、b グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
<p>(1) 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p>	<p>(2) 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p>	<p>(3) 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>

柱書後段部分（下線部 b）には、実現を目指す究極的なねらいが示されています。今回、この柱書に示された目標に加えて、

- (1)として、「知識及び技能」に関わるねらい
- (2)として、「思考力、判断力、表現力等」に関わるねらい
- (3)として、「学びに向かう力、人間性等」に関わるねらい

を示し目標としています。育成を目指す「公民としての資質・能力」を三つの柱により明確にしたということです。

この(1)から(3)までにそれぞれ示されたねらいを実現することが、「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」に必要とされる「公民としての資質・能力」を育成することにつながることを示しています。

さらに、今次改訂では、柱書前段部分（下線部 a）に、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して」と、(1)～(3)までに示す資質・能力の育成を目指すに当たり、生徒がどのような学びの過程を経験することが求められるかも一体的に示されています。このように、目標に教科・科目の特質に応じた学び方が示されたことも新学習指導要領の大きな特徴です。

以下に、各科目の目標を、地理領域科目と歴史領域科目に分けて示します。

◆ 地理領域科目の目標

<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
<p>(1)</p> <p>地理に関わる諸事象に関して、</p> <p>【地理総合】世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組</p> <p>【地理探究】世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題</p> <p>などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p>	<p>(2)</p> <p>地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、</p> <p>【地理探究】系統地理的、地誌的に、</p> <p>概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p>	<p>(3)</p> <p>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に</p> <p>【地理総合】追究、解決</p> <p>【地理探究】探究</p> <p>しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。</p>

◆ 歴史領域科目の目標

<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
<p>(1)</p> <p>【歴史総合】近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を</p> <p>【日本史探究】我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて</p> <p>【世界史探究】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら</p> <p>理解するとともに、諸資料から</p> <p>【歴史総合】歴史</p> <p>【日本史探究】我が国の歴史</p> <p>【世界史探究】世界の歴史</p> <p>に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p>	<p>(2)</p> <p>【歴史総合】近現代の歴史の変化</p> <p>【日本史探究】我が国の歴史の展開</p> <p>【世界史探究】世界の歴史の大きな枠組みと展開</p> <p>に関わる事象の意味や意義、</p> <p>【日本史探究】伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や</p> <p>【歴史総合】現在とのつながり</p> <p>【日本史探究】現在とのつながり</p> <p>【世界史探究】現代世界とのつながり</p> <p>などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p>	<p>(3)</p> <p>【歴史総合】近現代の歴史の変化に関わる諸事象</p> <p>【日本史探究】我が国の歴史の展開に関わる諸事象</p> <p>【世界史探究】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象</p> <p>について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に</p> <p>【歴史総合】追究、解決</p> <p>【日本史探究】探究</p> <p>【世界史探究】探究</p> <p>しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>

Q3 課題を追究したり解決したりする活動とはどのような活動ですか。

A3 単元など内容や時間のまとまりを見通して学習課題を設定し、諸資料や調査活動などを通して調べたり、思考、判断、表現したりしながら、社会的事象の特色や意味などを理解したり社会への関心を高めたりする学習活動などを指しています。

三つの柱に沿った資質・能力を育成するためには、生徒が課題を追究したり解決したりする活動の一層の充実が求められます。それらはいずれも「知識及び技能」を習得・活用して思考、判断、表現しながら課題を解決する一連の学習過程において効果的に育成されると考えられるからです。次は、課題を追究したり解決したりする活動の学習過程及び評価とその場面をイメージしたものです。

主な学習過程		主な学習活動の例	主な評価とその場面の例			
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
課題把握	動機付け	<ul style="list-style-type: none"> ●学習課題を設定する <ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象等を知る ・気付きや疑問を出し合う ・課題意識を醸成する ・学習課題を設定する 	<p>主として事実等に関する知識の習得</p> <p>主として概念等に関する知識の習得</p> <p>事実や概念等に関する知識の再認識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○情報を集める ・調査活動を通して ・諸資料を通して ・情報手段の特性や情報の正しさに留意して 等 ○情報を読み取る ・情報全体の傾向性を踏まえて ・必要な情報を選んで ・複数の情報を見比べたり結び付けたりして ・資料の特性に留意して 等 ○情報をまとめる ・基礎資料として ・分類・整理して ・相手意識をもって分かりやすさに留意して 等 	<p>「社会的な見方・考え方」を働かせて</p> <p>① 社会的な見方・考え方を働かせて</p> <p>② 社会的な見方・考え方を働かせて</p> <p>③ 社会的な見方・考え方を働かせて</p> <p>④ 社会的な見方・考え方を働かせて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に調べ分かうとして ・他者と協働して ・よりよい社会を目指して ・学んだことの意味に気付いて ・学んだことを社会生活に生かそうとして
	方向付け	<ul style="list-style-type: none"> ●課題解決の見通しをもつ <ul style="list-style-type: none"> ・予想や仮説を立てる ・調査方法、追究方法を吟味する ・学習計画を立てる 				
課題追究	情報収集	<ul style="list-style-type: none"> ●予想や仮説の検証に向けて調べる <ul style="list-style-type: none"> ・学校外での観察や調査などを通して調べる ・様々な種類の資料を活用して調べる ・他の生徒と情報を交換する 				
	考察・構想	<ul style="list-style-type: none"> ●社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する <ul style="list-style-type: none"> ・多面的・多角的に考察する ・話し合う（討論等） ●社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する <ul style="list-style-type: none"> ・複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する 				
課題解決	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ●考察したことや構想したことをまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を振り返って結論をまとめる ・結論について他の生徒と話し合う ・学習課題についてレポートなどにまとめる 				
新たな課題	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ●学習を振り返って考察する <ul style="list-style-type: none"> ・自分の調べ方や学び方、結果を振り返る ・学習成果を学校外の他者に伝える ・新たな問い（課題）を見いだしたり追究したりする 				

ここでは、「主体的・対話的で深い学び」が実現されるよう、生徒が社会的事象から学習課題を見だし、課題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果をまとめ、自分の学びを振り返ったり新たな問いを見いだしたりする方向で充実を図っていくことが大切です。

Q 4 地理歴史科における「社会的な見方・考え方」について教えてください。

A 4 「社会的な見方・考え方」は、社会科、地理歴史科、公民科の特質に応じた見方・考え方の総称であり、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法（考え方）」です。

◆ 地理歴史科における「社会的な見方・考え方」

地理領域科目	「社会的事象の地理的な見方・考え方」 社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること
歴史領域科目	「社会的事象の歴史的な見方・考え方」 社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること

社会的な見方・考え方を働かせるとは、そうした「視点や方法（考え方）」を用いて課題を追究したり解決したりする学び方を表すとともに、これを用いることにより生徒の「社会的な見方・考え方」が鍛えられていくことを併せて表現しています。

こうした「見方・考え方」を働かせることは、地理歴史科としての本質的な学びを促し、深い学びを実現するための思考力、判断力の育成はもとより、生きて働く知識の習得に不可欠であること、主体的に学習に取り組む態度にも作用することなどを踏まえると、資質・能力全体に関わるものであると考えられるため、目標の柱書に位置付けられています。

今次改訂においては、「社会的な見方・考え方」を学校種や科目等の特質を踏まえて整理する中で、地理歴史科における各科目において、それぞれの特質に応じた視点の例や、視点を生かした考察や構想に向かう「問い」の例なども整理されました。

◆ 「社会的事象の地理的な見方・考え方」を働かせる際に着目する視点と視点を生かした「問い」の例

視点の例	視点を生かした主な「問い」→想定される効果・発展
位置、分布	「それはどこに位置するのか、それはどのように分布するのか」 →「なぜそこに位置するのか」 「なぜそのような分布の規則性、傾向性を示すのか」という問いに発展。
場所	「それはどのような場所なのか」 →場所の特質が浮かび上がり、さらに他の場所との比較によって地方的特殊性と一般的共通性を探ることに結び付く。
人間と自然環境との相互依存関係	「そこでの生活は、周囲の自然環境からどのような影響を受けているか」 「そこでの生活は、周囲の自然環境にどのような影響を与えているか」 →地域的特色の理解、地域の環境開発や環境保全を考える際の重要な基礎となる。

空間的相互依存作用	<p>「そこは、それ以外の場所とどのような関係をもっているのか」</p> <p>「なぜ、そのような結び付きをしているのか」</p> <p>➔地域間の相互依存や協力、競合などの関係を明確化したり、空間的な関係性の要因の考察により地域的な特色を明らかにしたりするとともに、地域開発や地域間の関係改善への課題等を見だし、地域の将来像を構想することにもつながる。</p>
地域	<p>「その地域は、どのような特徴があるのか」</p> <p>「この地域と他の地域では、どこが異なっているのか」</p> <p>「なぜ、この地域はそうなったのか」</p> <p>➔地域の一般的共通性と地方的特殊性、自然環境との関わり、他地域との結び付き、それらがどのように変容しながら現在の地域が形成されたのかを考察することができる。「どのような地域にすべきか」という問いに対する考察や構想へ発展。</p>

◆ 「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を働かせる際に着目する視点と視点を生かした「問い」の例

視点の例	視点を生かした主な「問い」
時系列に関わる視点 時期、年代など	<p>「それはいつの出来事だろうか、同じ時期に他の地域ではどのようなことが起こっていたのだろうか」</p> <p>「その事象はどのような経緯で起こったのだろうか」</p>
諸事象の推移に関わる視点 展開、変化、継続など	<p>「このことで何を変えようとしたのだろうか、何が変わったのだろうか、何が変わらなかったのだろうか」</p> <p>「複数の諸事象の変化には、どのような違いがあるだろうか」</p>
諸事象の比較に関わる視点 類似、差異、特色など	<p>「その事象と他の事象を比較すると、どのような共通点と相違点を見いだすことができるだろうか」</p> <p>「その違いが生じたのはなぜだろうか」</p> <p>「共通点に注目すると、どのような傾向が見いだせるだろうか」</p>
事象相互のつながりに関わる視点 背景、原因、結果、影響、関係性、相互作用など	<p>「なぜ、その事象は起こったのだろうか」</p> <p>「この事象の背景にはどのような状況が存在したのだろうか」</p> <p>「あなたは、その事象が起こった最も重要な要因とは何だと考えるか」</p> <p>「あなたが学習した諸事象の中で、その事象と最も深いつながりがあると考えるのは何か、それはなぜか」</p> <p>「同じ時期に共通する特徴をもった事象が複数起こったのはなぜだろうか」</p> <p>「この事象の結果、どのような変化が生じたのだろうか」</p> <p>「その事象は、社会全体にどのような影響を及ぼしたと考えられるだろうか」</p>
現在とのつながり	<p>「過去の事象と類似した現代の事象は何だろうか」</p> <p>「現在の事象と、どのような点に関連しているのだろうか」</p> <p>「どのようなことが現在につながる変化の要因として考えられるだろうか」</p> <p>「この事象は、後の人々にどのような考えや課題をもたせたと考えられるか」</p> <p>「(現在の) この事象は、過去の類似の事例を参考にすると、その後、どのような展開の可能性があると考えられるか」</p> <p>「(現在の) この事象は、この後、どのような展開が望ましいと考えるか、それが実現されるためには、過去の事例を踏まえると、どのようなことが必要なのだろうか」</p> <p>「この事象を学ぶことは、あなたにとってどのような意味があると考えられるか」</p>

地理領域科目、歴史領域科目いずれにしても、単元など内容や時間のまとまりを見通し、それぞれの特質に応じた「見方・考え方」を働かせることができるような「問い」を設定し、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したりする学習を一層充実させることが大切です。

地理歴史科

(高等学校)

Q5 地理歴史科の科目構成はどのように変わりましたか。

A5 地理歴史科は今回の改訂で科目構成が大きく変わった教科です。社会で求められる資質・能力を全ての生徒に育むという観点から、地理歴史科を構成する空間軸と時間軸をそれぞれ学習の基軸とする「地理総合」と「歴史総合」を必修科目として位置付けるとともに、生徒一人一人を生涯にわたって探究を深める未来の創り手として送り出していくという観点から、「探究」をその科目名に含む「地理探究」、「日本史探究」及び「世界史探究」を選択科目として設置するという構成になっています。全て新科目です。

現行学習指導要領（平成 21 年告示）

科 目	標準単位数
世界史 A	2 単 位
世界史 B	4 単 位
日本史 A	2 単 位
日本史 B	4 単 位
地 理 A	2 単 位
地 理 B	4 単 位

新学習指導要領（平成 30 年告示）

科 目	標準単位数
地 理 総 合	2 単 位
地 理 探 究	3 単 位
歴 史 総 合	2 単 位
日本史探究	3 単 位
世界史探究	3 単 位

新学習指導要領では、以下のように、科目履修の順序が示されています。

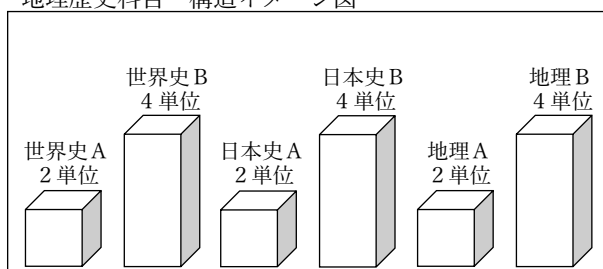
各科目の履修については、全ての生徒に履修させる科目である「地理総合」を履修した後に選択科目である「地理探究」を、同じく全ての生徒に履修させる科目である「歴史総合」を履修した後に選択科目である「日本史探究」、「世界史探究」を履修できるという、この教科の基本的な構造に留意し、各学校で創意工夫して適切な指導計画を作成すること。

これは、地理領域、歴史領域それぞれの科目が、育成される資質・能力を踏まえた関係性をもち、「地理総合」の学習を基盤とした上で「地理探究」が、「歴史総合」の学習を基盤とした上で「日本史探究」、「世界史探究」が設定されていることを示しています。

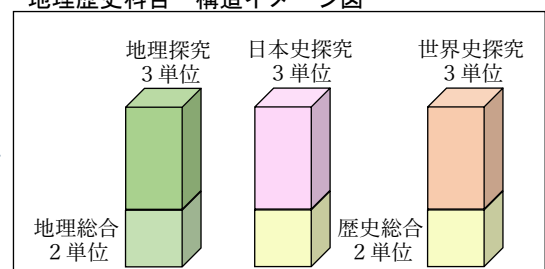
現行では、科目の履修の順序は示されておらず、それぞれの科目が2単位ないし4単位の、基本的には独立した科目として設定されていました（下の構造イメージ図参照）。

一方、今次改訂では、「必修科目」2単位の上に、それらを踏まえた3単位の「探究」科目が設定されています。ついては、単なる学習内容の重複に陥らないよう、小・中学校社会科との関連も図りつつ、学習の成果を踏まえた発展的な学習が展開できるように指導計画を作成することが大切です。

現行学習指導要領（平成 21 年告示）
地理歴史科目 構造イメージ図



新学習指導要領（平成 30 年告示）
地理歴史科目 構造イメージ図



Q6 「地理総合」はどのような科目ですか。

A6 「地理総合」は、持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する科目として新設された、標準単位数2単位の必修科目です。

◆ 「地理総合」の特徴と内容構成

科目の
特徴

持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察

グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を、地域的な視座から防災などの諸課題への対応を考察

地図や地理情報システム(GIS)などを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得

A 地図や地理情報システムで捉える現代世界

「地理総合」の学習の導入として中学校までの学習成果を踏まえ、現代世界の地域構成を主な学習対象とし、その結び付きを地図やGISを用いて捉える学習などを通して、汎用的な地理的技能を習得することを主なねらいとしています。

中項目(1) 地図や地理情報システムと現代世界

位置や分布などに関わる視点に着目して、現代世界の地域構成と地図やGISの活用の仕方を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、現代世界の地域構成の特色、地図やGISの役割や有用性などを理解し、そのために必要な技能を身に付けられるようにすることが求められます。

B 国際理解と国際協力

大項目Aの学習成果を踏まえ、世界の特色ある生活文化と地球的課題を主な学習対象とし、特色ある生活文化と地理的環境との関わりや地球的課題の解決の方向性を捉える学習などを通して、国際理解や国際協力の重要性を認識することを主なねらいとしています。

中項目(1) 生活文化の多様性と国際理解

場所や人間と自然環境との相互依存関係等に関わる視点に着目して、世界の人々の生活文化を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、世界の人々の生活文化の多様性や変容、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などを理解できるようにすることが求められます。

中項目(2) 地球的課題と国際協力

空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、世界各地で見られる地球的課題を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、地球的課題の傾向性や課題相互の関連性を大観し、課題解決を目指した各国の取組や国際協力の必要性などを理解できるようにすることが求められます。

C 持続可能な地域づくりと私たち

大項目A及びBの学習成果を踏まえ、国内外の防災や生活圏の地理的な課題を主な学習対象とし、地域性を踏まえた課題解決に向けた取組の在り方を構想する学習などを通して、持続可能な地域づくりを展望することを主なねらいとしています。

中項目(1) 自然環境と防災

人間と自然環境との相互依存関係や地域などに関わる視点に着目して、地域性を踏まえた防災を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、自然環境の特色と防災との関わりや、地域性を踏まえた防災の重要性などを理解し、そのために必要な技能を身に付けられるようにすることが求められます。

中項目(2) 生活圏の調査と地域の展望

空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、生活圏の地理的な課題を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などを理解できるようにすることが求められます。

◆ 「地理総合」における改善・充実の要点

ア 「社会的事象の地理的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実

各中項目の学習内容を踏まえて、適宜適切に、「社会的事象の地理的な見方・考え方」を構成する視点に着目することが大切です。意図的、計画的にそのような視点を位置付け、「地理総合」の学習の全体を通じて地理ならではの「見方・考え方」を働かせ、鍛える学習活動の充実が求められます。

※ 「地理総合」の各中項目に例示された視点

	①	②	③	④	⑤
A (1)	○				
B (1)		○	○		
(2)				○	○
C (1)			○		○
(2)				○	○

- ①…位置、分布
- ②…場所
- ③…人間と自然環境との相互依存関係
- ④…空間的相互依存作用
- ⑤…地域

イ 「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開

「社会的事象の地理的な見方・考え方」を生徒が働かせ、鍛えるためには、それを働かせることができるような、適切な「主題」や「問い」が前提となります。そのため各中項目には、いずれも思考力等を身に付ける事項において「主題を設定し」の記述が盛り込まれ、さらに解説中にはその具体的な事例が示されています。これらを参考にしながら生徒や学校などの実態を踏まえて適切な「主題」とそれに基づく「問い」を立て、それらを中心に構成した学習活動の展開が求められます。

ウ 地図や地理情報システムを活用して育む汎用的で実践的な地理的技能【大項目A】

「地理総合」の学習の冒頭に、「地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける」学習活動が位置付けられています。これを端緒として、「地理総合」の学習の全体を通して、読図や作図などの作業的で具体的な体験を伴う学習活動を行うことによって、「生きて働く」汎用的で実践的な地理的技能の育成・習熟を図ることを意図しています。

エ グローバルな視座から求められる自他の文化の尊重と国際協力【大項目B】

網羅的な地域情報を取り上げるのではなく、あくまで世界の人々の特色ある生活文化に焦点を当てて、その多様性や変容の要因を考察するといった学習活動の位置付けを意図しています。その上で、地球的課題が一層深刻化する現状において、地球的課題の現状や要因について地域性を踏まえて考察するとともに、その解決の方向性について相互互恵の立場から国際協力の在り方を考察するような学習活動を位置付けることを意図しています。

オ 我が国をはじめとする世界や生徒の生活圏における自然災害と防災【大項目C(1)】

自然災害に対応した人々の暮らしの在り方を考えることは、我が国で生活する全ての人々にとって欠くことのできない「生きる力」です。世界や日本で見られる自然災害の学習を踏まえて、そこでの人々の防災のための取組を教訓に、「生徒の生活圏で見られる自然災害」を取り上げ、対処の在り方を、自助、共助、さらには公助といった側面から学習を深めることを意図しています。

カ 持続可能な地域づくりのための地域調査と地域展望【大項目C(2)】

「地理総合」の学習の集大成として位置付けられる大項目C(2)では、生徒自身にとって最も身近な地理的空間である生活圏を対象とし、実際に観察や野外調査、文献調査などを行うことによって、そこに存在する地理的な課題を見だし、その解決策、改善策を考察、構想することを期待しています。さらに学習成果を地域に還元するなど社会参画を目指すことを視野に入れた学習活動によって、ここでの学習が授業の中で終結することなく、授業後の日常生活においても、さらに実社会に出ても継続的に持続可能な生活圏の在り方を考え続けることができる契機となるよう意図しています。

Q7 「地理探究」はどのような科目ですか。

A7 必修科目である「地理総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、系統地理的な考察、地誌的な考察によって習得した知識や概念を活用して、現代世界に求められるこれからの日本の国土像を探究する科目として新設された、標準単位数3単位の選択科目です。

◆ 「地理探究」の内容構成

A 現代世界の系統地理的考察

「地理総合」の学習成果を踏まえ、現代世界における地理的な諸事象を主な学習対象とし、その空間的な規則性、傾向性や関連する課題の要因を捉えるなどの学習を通して、現代世界の諸事象の地理的認識とともに、系統地理的な考察の手法を身に付けることを主なねらいとしています。

- 中項目(1) 自然環境
- (2) 資源・産業
- (3) 交通・通信、観光
- (4) 人口、都市・村落
- (5) 生活文化、民族・宗教

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、それぞれの項目に関わる諸事象を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、それぞれの項目に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などを理解できるようにすることが求められます。

B 現代世界の地誌的考察

大項目Aの学習成果を踏まえ、現代世界を構成する諸地域を主な学習対象とし、選択した地域の地域性と諸課題を捉える学習などを通して、現代世界の諸地域の地理的認識を深めるとともに、現代世界の諸地域を地誌的に考察する方法を身に付けることを主なねらいとしています。

中項目(1) 現代世界の地域区分

位置や分布、地域などに関わる視点に着目して、世界や世界の諸地域の地域区分を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、地域区分の方法や地域の概念、地域区分の意義などを理解し、そのために必要な技能を身に付けられるようにすることが求められます。

中項目(2) 現代世界の諸地域

空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、現代世界の諸地域や地球的課題を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、区分した諸地域に見られる地域的特色や地球的課題、地域の結び付き、構造や変容などを地誌的に考察する方法を理解できるようにすることが求められます。

C 現代日本におけるこれからの日本の国土像

大項目A及びBの学習成果を踏まえ、現代世界における日本の国土を主な学習対象とし、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方を構想する学習などを通して、持続可能な国土像を探究することを主なねらいとしています。

中項目(1) 持続可能な国土像の探究

空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、現代世界におけるこれからの日本の国土像を多面的・多角的に探究し、表現する力を育成するとともに、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などを理解できるようにすることが求められます。

◆ 「地理探究」における改善・充実の要点

ア 「社会的事象の地理的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実

各中項目の学習内容を踏まえて、適宜適切に、「社会的事象の地理的な見方・考え方」を構成する視点に着目することが大切です。意図的、計画的にそのような視点を位置付け、「地理探究」の学習の全体を通じて地理ならではの「見方・考え方」を働かせ、鍛える学習活動の充実が求められます。

※ 「地理探究」の各中項目に例示された視点

	①	②	③	④	⑤
A (1)		○	○		
(2)~(5)		○		○	
B (1)	○				○
(2)				○	○
C (1)				○	○

- ①…位置、分布
- ②…場所
- ③…人間と自然環境との相互依存関係
- ④…空間的相互依存作用
- ⑤…地域

イ 「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開

「地理総合」と同様に「地理探究」においても、「社会的事象の地理的な見方・考え方」を働かせ、鍛えるためには、「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開が必要です。解説には、各中項目に、「主題」と「問い」が例示され、大項目Cには学習展開例が示されています。

「地理探究」では、日本の将来を担う生徒自身が、在るべき国土像を見いだそうとすることを求めています。そのため、生徒が地理的な知識を確実なものにするとともに、地球規模から地域規模までの様々な規模の空間認識を深めるためにも、適宜適切に「主題」や「問い」を設定して、新たな国土像の在り方を探究し、創造する力を育むことが期待されます。

ウ 「大項目C」の前提としての系統地理的考察と地誌的考察【大項目A及びB】

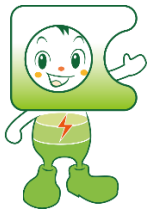
系統地理的考察と地誌的考察は、「持続可能な国土像の探究」を図る上での前提であり、大項目Aで取り上げる諸事象の学習や大項目Bで取り上げる諸地域の学習を通して考察、理解したことが、大項目Cで活用される必要があります。また、科目のまとめとして行われる「探究」に適切な時間配当がなされるためにも、そこで取り扱う主題を見据えて、系統地理的考察で取り上げる事象、地誌的考察で取り上げる地域を重点化するなどの工夫も必要です。三つの大項目はそのような関連をもたせて位置付けられており、三者を円滑に結び付けた、調和の取れた学習が展開するよう意図しています。

エ 「現代世界の系統地理的考察」における「交通・通信、観光」の項目化【大項目A(3)】

社会の情報化、グローバル化によって、国内外の結び付きが緊密化し、人や物、情報などの動きが活発化する中で、それらを地理情報として捉える必要性が増大しています。そこで「現代世界の系統地理的考察」の項目構成を見直し、従来「資源、産業」として、それらの生産や立地などに関わる諸事象の規則性、傾向性を対象としてきた項目から、人や物、情報などの動きに注目し、それらを支える社会資本や産業に関わる諸事象を取り出し、交通地理学や観光地理学などの研究成果を踏まえてその規則性、傾向性を考察する新たな中項目として位置付けることを意図しています。

オ 「現代世界におけるこれからの日本の国土像」を問う探究項目の充実【大項目C】

「地理探究」は、探究活動の実施を中核のねらいとすることから、あえて「探究」をその科目名に冠しています。これまで学んできた様々な学習成果を基に、現代世界における日本の国土の特色を国や地域や個人といった多層にわたる視点から捉え、日本が抱える地理的な諸課題を生徒自ら見いだすことを通して、その解決と望ましい国土の在り方を実現するためにどのような取組が必要かを探究することで、ここでの学習を「地理探究」の学びの集大成として位置付けることを意図しています。



【主題】や【問い】を中心に構成する学習の展開例

前述したように、「地理総合」、「地理探究」においては、「社会的事象の地理的な見方・考え方」を働かせることができるような、適切な「主題」や「問い」を中心に構成した学習活動の展開が求められます。以下にその一例を紹介します。

「地理探究」大項目 A (4) 人口、都市・村落において、「都市・村落」を事例とした場合…

【知識】 都市・村落に関わる事象の空間的な規則性、傾向性や、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。

【思考力、判断力、表現力等】 場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する。

【主題】「都市の変容」

【問い】「都市はどのように形成され、どのように変化していくのだろうか」

この単元全体に関わる大きな問いを以下に示すような問いを結び付けて展開することが考えられる。

【問い】「なぜ、都市の分布には地域差が見られるのだろうか」

といった問いを立てて、人口 100 万以上の巨大都市の分布図や都市人口率の地域差を示した地図の読み取りなどを基に、都市の分布の地域差について概観する。次に、

【問い】「人々はどのような場所に居住し、どのように都市を発達させてきたのだろうか」

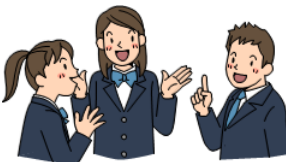
といった問いを立てて、地形図などの資料を基に、学校の所在地や居住地などの身近な都市や村落とともに世界の主な首都などについて、

「どのような自然条件の上に立地しているのだろうか」、「自然条件の他に立地条件はないのだろうか」などと追究することで、「都市は、場所の自然環境や他地域との結び付き、歴史的背景などの影響を受けて立地する」などの都市の立地に関わる概念を獲得する。さらに、

生活用水の得やすい場所や、水害を受けにくい場所に集落が立地しているね。

多民族国家の民族的境界や国内で相対的に開発が進んでいない地域に首都が置かれる場合があるね。

内湾や大きな河川など水運の便が良い場所に大都市が立地しているね。



【問い】「人々はどのように都市を拡大させてきたのだろうか」

といった問いを立てて追究を継続し、世界の主な都市の事例を基に、都市の変容に焦点を当てて考察し、ドーナツ化やスプロール化などの都市の変容の規則性、傾向性、地域の中の都市間の階層性などに気付き、「都市の変容には一般的な規則性、傾向性と地域性が見られる」などの概念についても獲得する。

そして、一連の学習活動のまとめとして、

【問い】「都市の持続的な発展には、どのような課題があるのだろうか」

といった問いを立てて、これまでの学習で身に付けた概念を使って居住・都市問題の要因や解決の方向性などについて考察する。その際、更に日本の都市に関わらせて学習を進め、

【問い】「日本の都市にはどのような課題があるのだろうか」

といった問いを立てて、中心市街地の空洞化、生活の基盤となるインフラの老朽化の現状などについて考察し、その要因や解決の方向性などを追究することで、持続可能な都市には何が必要かということについて、自分の考えをもつ。

Q 8 歴史領域科目の学習指導の改善・充実の要点を教えてください。

A 8 3科目に共通する改善・充実の要点として、次の4点が挙げられます。

- ア 「社会的事象の歴史的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実
- イ 「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開
- ウ 単元や内容のまとまりを重視した学習の展開
- エ 資料を活用し、歴史の学び方を習得する学習

ア 「社会的事象の歴史的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実

「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を構成する視点には、「時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながり」などがあり、学習内容に応じて多様な視点に着目して、歴史に関わる事象を比較したり、関連付けたりして捉え、課題を追究したり解決したりする学習を展開することが大切です。「見方・考え方」を用いることによって、生徒が獲得する知識の概念化を促し理解を一層深めたり、課題を主体的に解決しようとする態度などにも作用したりすることが期待されることから、歴史ならではの「見方・考え方」に基づく学習活動の充実が求められます。

イ 「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開

上述の「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を生徒が働かせ、鍛えるためには、「見方・考え方」を働かせることができるような、適切な「主題」や「問い」の設定が前提となります。各中項目には、いずれの項目についても思考力等を身に付ける事項に「主題を設定し」の記述が盛り込まれています。さらに、解説中には、学習内容への見通しをもたせる「問い」を表現する学習、「主題」を設定して、それを踏まえた「問い」を設定して展開する学習など、具体的な事例が示されています。生徒や学校などの実態を踏まえて適切な「主題」やそれに基づく「問い」を立て、それらを中心に構成した学習活動の実施が求められます。

ウ 単元や内容のまとまりを重視した学習の展開

歴史領域科目では、解説において、大項目内の中項目の役割を明確に示しています。例えば、課題意識を形成し学習の見通しをもつための学習を展開する中項目、その見通しを踏まえて、歴史的事象の意味や意義などを考察する学習を展開するなど、大項目が学習の大きなまとまりをもって構成されています。こうした単元等のまとまりの中で、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を進めることが大切です。

エ 資料を活用し、歴史の学び方を習得する学習

「思考力、判断力、表現力等」を身に付けることを重視する学習においては、考察する際の根拠となる資料の扱いが重要となります。3科目とも、ほぼ全般にわたり、資料を活用した学習の充実を図っています。特に、「歴史総合」では、大項目Aの(2)「歴史の特質と資料」において、資料に基づいて歴史が叙述されていることへの理解とともに、その特性や作成の背景などを含めた資料の吟味の大切さなど、資料を扱う際の留意点に気付くようにします。その上で、生徒が資料を活用して問いを表現したり、資料を活用して事象を考察したりする学習が展開されます。続く、探究科目においては、さらに技能を高めていきます。このように生徒が資料を活用し考察する学習を繰り返すことで、それに関わる技能の定着を図るとともに内容の確かな理解に至るといって、歴史の学び方を習得することが求められます。

Q9 「歴史総合」はどのような科目ですか。

A9 「歴史総合」は、社会の形成者となる生徒が、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を主体的に考察、構想する科目として新設された、標準単位数2単位の必修科目です。

今回の改訂で、新たに必修科目として設置された「歴史総合」は、以下の3点を主要な特徴としています。

世界と其中における日本を広く相互的な視野から捉えて、近現代の歴史を理解する。

歴史の推移や変化を踏まえ、課題の解決を視野に入れて、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する。

歴史の大きな転換に着目し、単元の基軸となる問いを設け、資料を活用しながら、歴史の学び方を習得する。

「歴史総合」では、「現代的な諸課題の形成に関わる歴史の大きな変化」として、以下の三つの変化に着目しています。

- ・ 産業社会と国民国家の形成を背景として、人々の生活や社会の在り方が変化したこと。
- ・ 政治、外交、経済、思想や文化などの様々な面で国際的な結び付きが強まり、国家間の関係性が変化したことや個人や集団の社会参加が拡大したことを背景として、人々の生活や社会の在り方が変化したこと。
- ・ 科学技術の革新を背景に人・商品・資本・情報等が国境を越えて一層流動するようになり、人々の生活や社会の在り方が変化したこと。

「歴史総合」では、このような近現代の歴史の大きな変化を「近代化」、「国際秩序の変化や大衆化」、「グローバル化」と表し、現代の社会の基本的な構造がどのような歴史的な変化の中で形成されてきたのか、それは生徒自身が向き合う現代的な諸課題とどのように関わっているのかなどについて生徒が課題意識をもって考察できるよう、「A 歴史の扉」、「B 近代化と私たち」、「C 国際秩序の変化や大衆化と私たち」、「D グローバル化と私たち」の四つの大項目から構成されています。

◆ 「歴史総合」の内容構成

A 歴史の扉

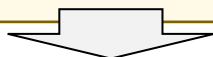
この科目の導入として、中学校までの学習を踏まえ、高校の歴史学習への動機付けと以後の学習に必要な歴史学習の基本的な技能や学び方を身に付ける。

中項目(1) 歴史と私たち

近現代の歴史の大きな変化と私たちの生活との関連について考察し、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象が、日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解できるようにする。

中項目(2) 歴史の特質と資料

資料を活用し、歴史学習に必要な基本的な技能などを身に付けるとともに、資料と歴史の叙述の関わりについて理解できるようにする。



B 近代化と私たち

産業社会と国民国家の形成を背景として、人々の生活や社会の在り方が変化したことを扱い、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて考察し、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解できるようにする。

中項目(1) 近代化への問い

中項目(2) 結び付く世界と日本の開国

ア 18世紀のアジアの経済と社会 イ 工業化と世界市場の形成

中項目(3) 国民国家と明治維新

ア 立憲体制と国民国家の形成 イ 列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容

中項目(4) 近代化と現代的な諸課題

C 国際秩序の変化や大衆化と私たち

政治、外交、経済、思想や文化などの様々な面で国際的な結び付きが強まり、国家間の関係性が変化したことや個人や集団の社会参加が拡大したことを背景として、人々の生活や社会の在り方が変化したことを扱い、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて考察し、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解できるようにする。

中項目(1) 国際秩序の変化や大衆化への問い

中項目(2) 第一次世界大戦と大衆社会

ア 総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制 イ 大衆社会の形成と社会運動の広がり

中項目(3) 経済危機と第二次世界大戦

ア 国際協調体制の動揺 イ 第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰

中項目(4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題

D グローバル化と私たち

科学技術の革新を背景に人・商品・資本・情報等が国境を越えて一層流動するようになり、人々の生活と社会の在り方が変化したことを扱い、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて考察し、現代的な諸課題の形成に関わるグローバル化の歴史を理解できるようにするとともに、考察、構想して探究し、現代的な諸課題を理解できるようにする。

中項目(1) グローバル化への問い

中項目(2) 冷戦と世界経済

ア 国際政治の変容 イ 世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会

中項目(3) 世界秩序の変容と日本

ア 市場経済の変容と課題 イ 冷戦終結後の国際政治の変容と課題

中項目(4) 現代的な諸課題の形成と展望



「歴史総合」では、その目標を実現するために、大項目Bの(4)及びCの(4)では、現代的な諸課題の形成に関わる歴史の理解を図る学習を、大項目Dの(4)では、生徒が自身の関心を基に主題を設定し、歴史的な経緯を踏まえて現代的な諸課題を理解したり、考察、構想したりする学習が設定されています。

このように、「歴史総合」のねらいは、「歴史の大きな変化」そのものを知ること、つまり知識として習得することに留まるものではありません。最も重要な点は、生徒が現代の社会の基本的な構造がどのような歴史的な変化の中で形成させてきたのかを理解し、自らが向き合う現代的な諸課題との関わりについて、課題意識をもって考察できるよう、学習が展開されることです。各大項目名が、「近代化と私たち」、「国際秩序の変化や大衆化と私たち」、「グローバル化と私たち」と、「私たち」という言葉で結ばれているのは、学習者である生徒が、自分自身が向き合う「現代的な諸課題」との関わりについて、歴史的経緯を踏まえて考察することがねらいであることを表しているのです。

◆ 「歴史総合」の学習の構成

1 大項目の構成

大項目A, B, C及びDについては、それぞれが内容のまとまりであると同時に、相互に関係性をもっており、この順序で学習することになっています。また、科目全体のまとめとなっているDの(4)の学習が充実するように、内容のつながりに留意した指導計画の作成を行うことが大切です。

2 大項目BからDまでの中項目の構成

大項目B, C及びDでは、生徒が資料から課題を見だし、自ら学習を深めることができるように、それぞれ中項目(1)から(4)が設定されており、以下のように結び付いた一連の学習の展開を構成しています。

中項目(1)－身近な資料から考察する、過去への問い－

身近な生活や社会の変化を表す資料を取り上げて、情報を読み取ったりまとめたりして、生徒が「近現代の歴史の大きな変化」に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する学習を行います。生徒が問いを表現する中で、大項目の学習についての課題意識を醸成することが大切です。

中項目(2)及び(3)－主題を踏まえた考察と理解－

中項目(1)の生徒が表現した問いを踏まえ、主題を設定し、資料を活用して課題を考察します。その際、それらの主題を、学習上の課題(問い)として示すことで、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史の理解を深める学習となるよう工夫することが求められます。

中項目(4)－歴史の大きな変化と現代的な諸課題－

中項目(1)から(3)までの学習内容を踏まえ、「自由・制限」、「平等・格差」、「開発・保全」、「統合・分化」、「対立・協調」など、現代的な諸課題の形成に関わる歴史的な状況を考察するための観点を活用して主題を設定し、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察し、表現します。

なお、大項目Dの中項目(4)「現代的な諸課題の形成と展望」は、この科目のまとめとして位置付けられています。これまでの学習を踏まえ、持続可能な社会の実現を視野に入れ、生徒が自ら主題を設定して、探究します。

このように、中項目(1)で生徒が大項目を見通した問いを立てた上で、(2)、(3)で内容を学習し、理解を深めます。そして、(4)で歴史の大きな変化と現代的な諸課題との関係を考察し、大項目全体の(大項目Dの(4)については、科目全体の)振り返りやまとめを行います。大項目は、課題意識の形成から始まる探究的な学びの構成をもつ、「学習のまとまり」として構成されているのです。

3 小項目の設定(事項ア「知識及び技能」と事項イ「思考力、判断力、表現力等」の関係)

学習指導要領では、資質・能力の三つの柱に沿って「ア 知識及び技能」と「イ 思考力、判断力、表現力等」に関わる事項が示されていますが、これは学習の順序を表すものではありません。学習の過程では「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を身に付ける学習が一体となって展開され、深い理解に至ることが重要です。そのため、ア(ア)とイ(イ)の事項、ア(イ)とイ(イ)の事項、のように、各中項目内で対応する「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の事項が一体となり、それぞれ一つの学習のまとまりを構成しています。このまとまりが「小項目」となります。大項目B, C及びDの中項目(2)及び(3)の学習は、この小項目から構成されています。

ここでは、「歴史総合」の大項目Cの中項目(2)のア(イ)とイ(イ)で構成される小項目を例に、解説が示す学習内容と学習過程の構造について示します。

C 「国際秩序の変化や大衆化と私たち」 ← 大項目

(2) 第一次世界大戦と大衆社会 ← 中項目

ア 次のような知識を身に付けること。 ← 「知識及び技能に関する事項」

(ア) ……省略……

(イ) a 大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、b 大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ← 「思考力、判断力、表現力等に関する事項」

(イ) ……省略……

(イ) c 第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、d 主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、e 第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現すること。

アの(イ)と
イの(イ)が
結び付いて
小項目を形成

この小項目の学習に当たっては、ア(イ)の a 大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、イ(イ)の c 第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、教師が例えば、「大衆社会と社会運動」などの d 主題を設定し、その主題を学習上の課題とするために、「なぜ、1920年代に大衆文化が広範囲に及んだのだろうか」 など、この小項目全体に関わる問いを設定します。

この「小項目全体に関わる問い」を踏まえて、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、e 第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察したり表現したりすることにより、ア(イ)の b 大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解することに至る学習の過程が考えられます。

つまり、アの事項の a を基に、イの事項の c に着目して、d 主題を設定し、それに応じた「小項目全体に関わる問い」を学習上の課題として設定する。この「問い」を踏まえて e を考察し、表現して、アの b の理解に至るという構造となっています。

4 事象に関わる学習と問いの構造

解説では、aの事象を学習する際に、主題を基にした「小項目全体に関わる問い」を踏まえ、「事象の推移や展開を考察し理解を促すための課題(問い)」を設定し、さらに「事象を比較したり相互に関連付けたりして考察し理解を深めるための課題(問い)」を設定して考察の結果を表現するなど、段階的に課題(問い)を設定する学習を例として示しています。以下はaに示された事象のうち、大量消費社会と大衆文化について、課題(問い)を設定した学習の例です。

① 事象の推移や展開を考察し理解を促すための課題(問い)

大量生産や大量消費が人々の生活をどのように変えたのだろうか。

② 事象を比較したり相互に関連付けたりして考察し理解を深めるための課題(問い)

あなたは、当時の社会や文化の変化のうち、その後の政治や経済に最も大きな影響を与えたのは何だと考えるか、それはなぜか。

当時の諸資料を活用しながら大量生産・大量消費が社会にもたらした影響について考察し、大衆文化の特徴を理解する。

都市的で画一化した生活様式や新中間層の成立、大衆社会の成立の背景や原因を多面的・多角的に考察し、表現する。

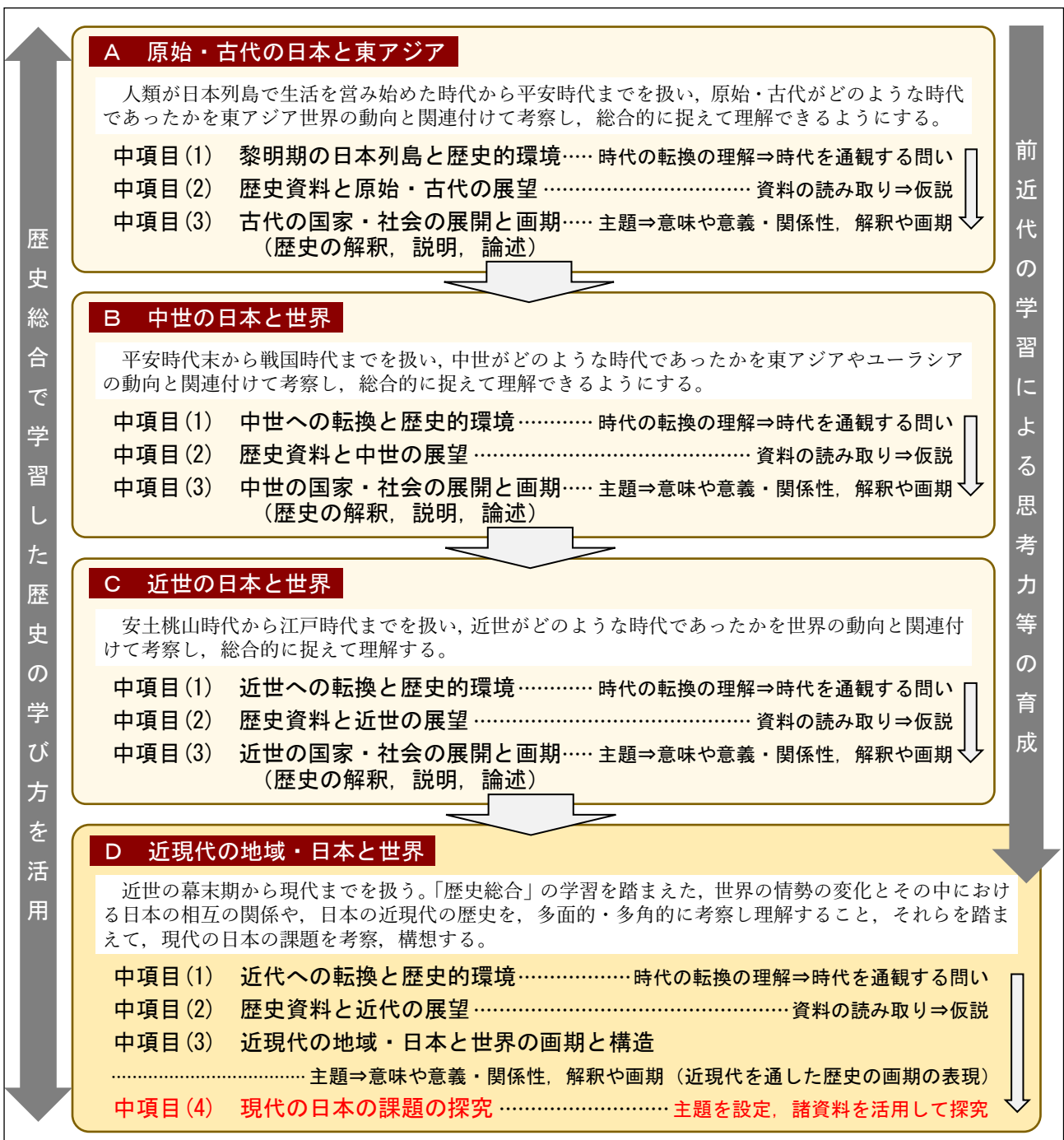


解説では、具体的な課題(問い)については、各小項目のaの事象のうち一つのみ、例を示しています。例に示した事象以外についても、同様に段階的な課題(問い)を設定して学習することが大切です。なお、解説に示された問いの例は、あくまでも参考であり、教師が、生徒の興味・関心や学校、地域の実態等に留意し、様々な状況に応じた工夫をすることが大切です。

Q10 「日本史探究」はどのような科目ですか。

A10 「日本史探究」は、「歴史総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、現代の日本の課題を探究する科目です。

◆ 「日本史探究」の内容構成



◆ 「日本史探究」の学習の構成

1 大項目の構成

「日本史探究」は、その趣旨を実現するために、四つの大項目によって構成され、前近代と近現代の内容において、それぞれ以下のような二つの段階的なねらいが設定されています。

- A 原始・古代の日本と東アジア
- B 中世の日本と世界
- C 近世の日本と世界
- D 近現代の地域・日本と世界

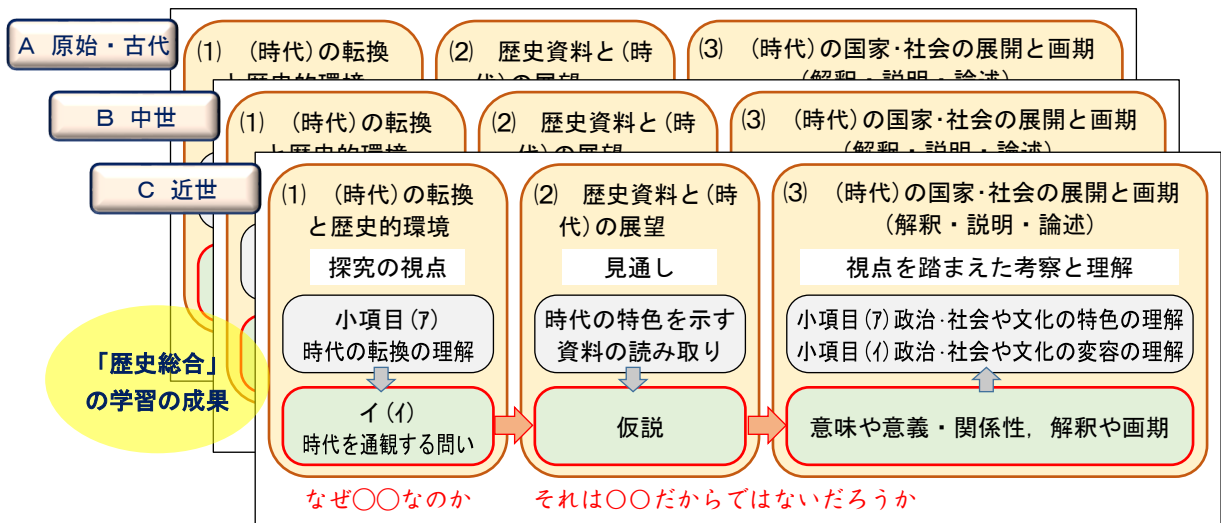
多様な資料を効果的に活用して、歴史を考察し表現し、「歴史総合」で育んだ歴史の学び方を活用しつつ、我が国の歴史の展開や伝統と文化への理解を深める。

「歴史総合」で獲得した概念やこの科目の前近代の学習とのつながり、前近代の学習で成長させた歴史を考察する力を活用し、歴史に関わる諸事象相互の関係性や、地域と日本、世界との関係性などを構造的に整理して理解し、さらに現代の日本の諸課題について多面的・多角的に考察、構想する。

したがって、大項目A～Dはこの順序で扱う必要があります。

2 中項目の構成

大項目A～Dは、それぞれの中項目(1)から(3)までが、以下のように結び付き、一連の学習の展開をもった構造となっています。



中項目(1)では、時代の転換を取り上げ、対象となる時期の我が国を巡る対外的な環境や交流などや、中学校での学習を踏まえた国内の時代の特色の理解を基に、前の時代との比較などを通して時代の転換について考察して、時代の特色を探究するための筋道や学習の方向性を導く時代を通観する問いを表現します。

中項目(2)では、時代の特色を示す資料を活用して、(1)で表現した時代を通観する問いを成長させ、時代の特色について、(3)の学習への見通しを立てて探究的な学びに向かうための仮説を表現します。

中項目(3)では、中項目(1)及び(2)で表現された時代を通観する問いや仮説を踏まえ、資料を活用して、各時代の歴史の展開について、事象の意味や意義、関係性などを考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期を表現します。その際、歴史に関わる諸事象を解釈したり、説明したり、論述したりする学習を繰り返し行う中で、思考力、判断力、表現力等の育成を図ります。

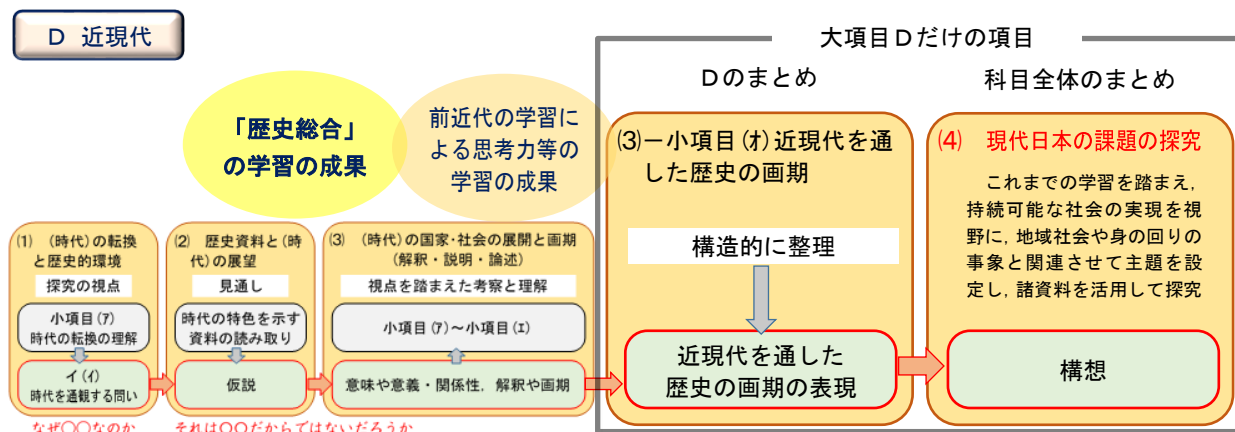
これに関連して、解説では、以下の段階的な三つの課題（問い）を設定した学習の構成を示しています。

- i 事象の推移や展開を考察し理解を促すための課題（問い）
 - ⑧ 「織豊政権と比較した江戸幕府の統制の最も大きな特徴は何だろうか」
- ii 事象の意味や意義、関係性などを考察し理解を促すための課題（問い）
 - ⑧ 「戦乱がなくなったことが人々の生活や社会にどのような影響を与えたのだろうか」
- iii 諸事象の解釈や画期を考察し表現することを促すための課題（問い）
 - ⑧ 「幕藩体制の確立の過程で、あなたが最も重要な意味をもつと考えられる出来事は何だろうか、それはなぜか」

このような学習の過程を通して、生徒が歴史に関わる事象を結び付けながら、それらを概念的な知識として獲得して理解を深めるとともに、学習の過程において「思考力、判断力、表現力等」の育成を図ることができると考えられます。

解説には様々な課題（問い）示されていますが、ここに示されている課題（問い）はあくまでも参考の事例です。実際の学習においては、教師が生徒の学習状況や興味・関心を見極めつつ、ねらいに則した適切な課題（問い）を設定するよう、留意することが大切です。

3 大項目Dの学習



中項目(3)の小項目(オ)では、(1)～(3)までの学習のまとめとして、我が国の近現代の歴史の展開の画期について、根拠を踏まえて考察し表現する学習活動を行います。

【学習活動の例】

Dの(3)の(ア)から(エ)までの学習で見いだした画期などに着目して、「我が国の近現代の歴史をいくつかの時期に区分し、それぞれの時期の特色を説明しよう」などの課題（問い）を設定して、政治や経済、社会、文化など歴史の諸要素や事象の因果関係、時間の推移に伴う変化、地域社会と日本や世界などの相互の関係性など、様々な側面から構造的に整理して考察するなどにより時期の特色を見だし、我が国の近現代の歴史を時期区分し、区分したそれぞれの時期の特色を根拠を示して表現する。

中項目(4)では、これまでの学習を踏まえ、この科目のまとめとして、現代の日本の課題の形成に関わる歴史について、生徒の生活や生活空間、地域社会との関わりを踏まえた主題を設定して、よりよい社会の実現を視野に多面的・多角的に考察し、歴史的な経緯や根拠を踏まえた展望を構想して、その結果を表現する学習を行います。

【学習展開の例】

学習活動	指導に当たって
<p>I 主題の設定と学習上の課題（問い）の表現</p> <p>これまでの学習を踏まえ、新聞やテレビ、インターネット等のニュースや、雑誌・書籍、実際に見聞きするなどして見いだした、現代的な課題に結び付く歴史に関わる事象について、持続可能な社会の実現を視野に入れ、地域社会や身の回りの事象と関連させて、①社会や集団と個人、②世界の中の日本、③伝統や文化の継承と創造の、いずれか一つ、もしくはこれらが複合的に関連する主題を設定し、学習上の課題（問い）を表現する。</p>	<p>主題が地域社会や生徒の生活や生活空間と関連したものであり、かつ科目のまとめとして適切かといった観点に留意する。</p>
<p>II 仮説の設定と諸資料の活用</p> <p>設定した主題に基づき学習上の課題（問い）を表現した後、主題に関わる歴史や現状を知るための資料を収集する。その上で、収集した資料を基に、主題に関する仮説を表現する。</p>	<p>資料が主題と関連したものであり、仮説の設定のために適切かといった観点に留意し、場合によって外部の機関や地域の協力が得られるよう助言や働き掛けを行う。</p>
<p>III 仮説の吟味や妥当性の考察</p> <p>IIで設定した仮説を検証するため、これまでの学習の成果を生かし、様々な資料を基に、歴史の画期に着目して歴史に関わる事象の推移や変化、因果関係を考察し、資料に見られる諸事象の歴史の展開における意味や意義を考察する。</p>	<p>論証に用いた資料の選び方やその解釈の仕方は適切か、取り上げた歴史に関わる事象についての学説面の理解や説明は合理的で適切か、関連する諸事象や互いに異なる諸見解などを踏まえて多面的・多角的に考察しているか、展望は、歴史的経緯を踏まえて論理的になされているかといった観点に留意する。</p>
<p>IV 学習の成果の発表と対話（歴史の論述）</p> <p>「考察、構想して表現する」については、探究した主題についてレポートやポスター、スライドの形でまとめるなどして、授業の中などで生徒による発表や意見交換の場面を設定する。</p>	<p>IIIに示した観点が適切に表現されているかに着目するとともに、発表や相互評価を経て理解が更に深まったかといった観点に留意する。</p>

こうした学習を通して、生徒が歴史を学ぶ意義をより深く認識しつつ、人間尊重の精神に基づく真の国際理解を深め、地域を含めた社会の有為な形成者としての主体性や、日本の果たし得る役割や、諸地域や世界各国の相互協力の必要性について認識できるようにすることが重要です。



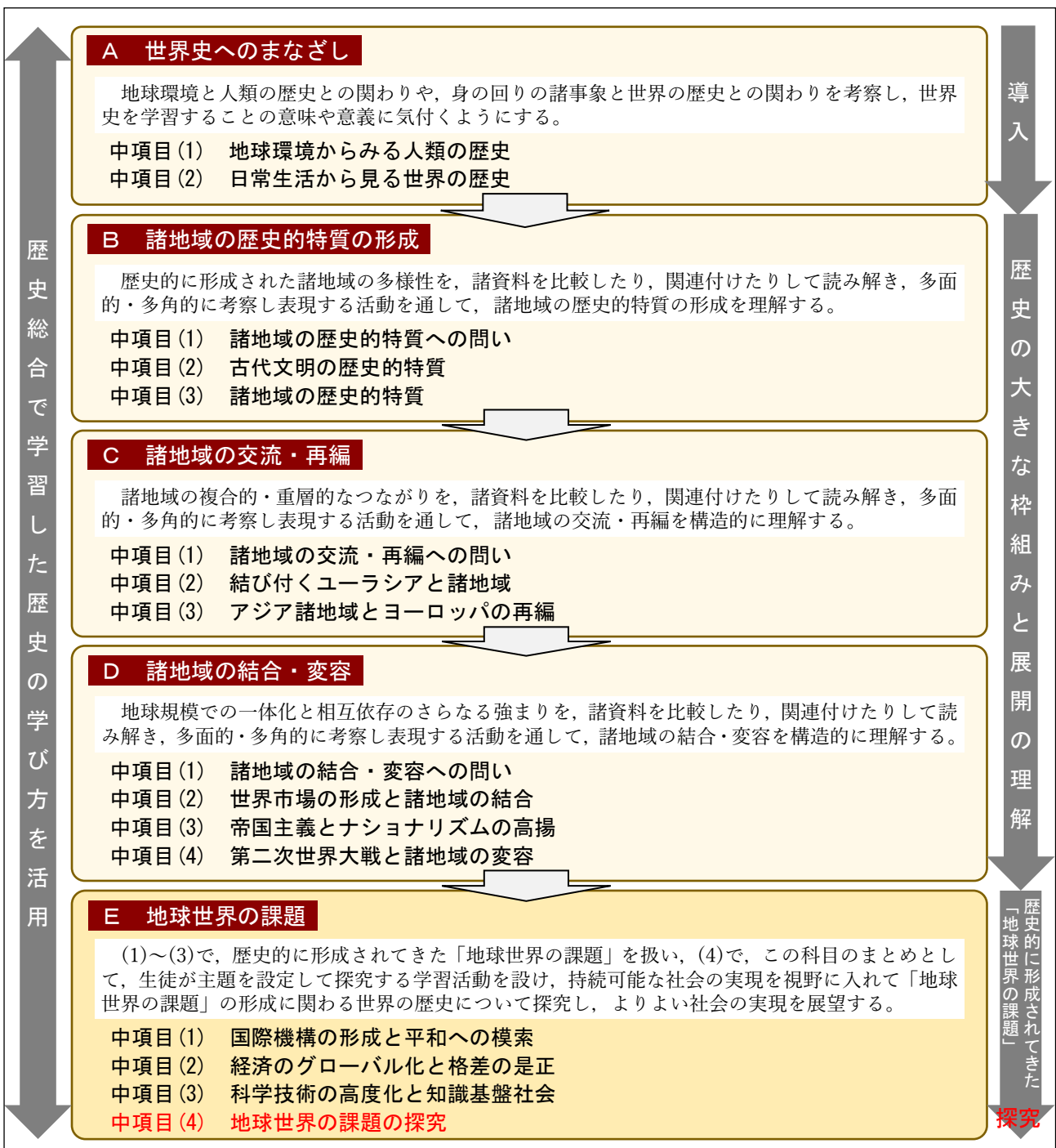
小学校社会科においては、我が国の歴史の主な事象を人物の働きや代表的な文化遺産を中心に学習します。中学校社会科歴史的分野においては、我が国の歴史の大きな流れを世界の歴史を背景に学びます。「歴史総合」では、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を学習します。「日本史探究」においては、これらの学習の成果を踏まえ、事象の結び付きや広がり、関係性などを一層重視して扱い、生徒が現代の社会や自身との関わりなどから、興味・関心をもって学習に臨むことができるように指導を工夫することが大切です。

日本史の学習に求められるのは、十分な考察過程などを通じて学習内容のより深い理解と確かな定着を図り、自分自身の言葉で歴史の大きな展開と伝統や文化の特色を自在に表現できることです。そうしてこそ、学習した内容が実社会・実生活の場面で生かすことのできる本当の意味の基礎・基本として身に付くのです。

Q11 「世界史探究」はどのような科目ですか。

A11 「世界史探究」は、「歴史総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、事象の意味や意義、特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、地球世界の課題を探究する科目です。

◆ 「世界史探究」の内容構成



◆ 「世界史探究」の学習の構成

1 大項目の構成

内容のA, B, C, D及びEについては、この順序で取り扱うものとし、A, B, C及びD並びにEの(1)から(3)までの学習をすることにより、Eの(4)の学習が充実するように年間指導計画を作成すること。また、「歴史総合」で学習した歴史の学び方を活用すること。

「世界史探究」は、生徒が世界の歴史の大きな枠組みと展開への理解を深め、地球世界の課題について探究するという趣旨から、AからEの大項目を設定しています。

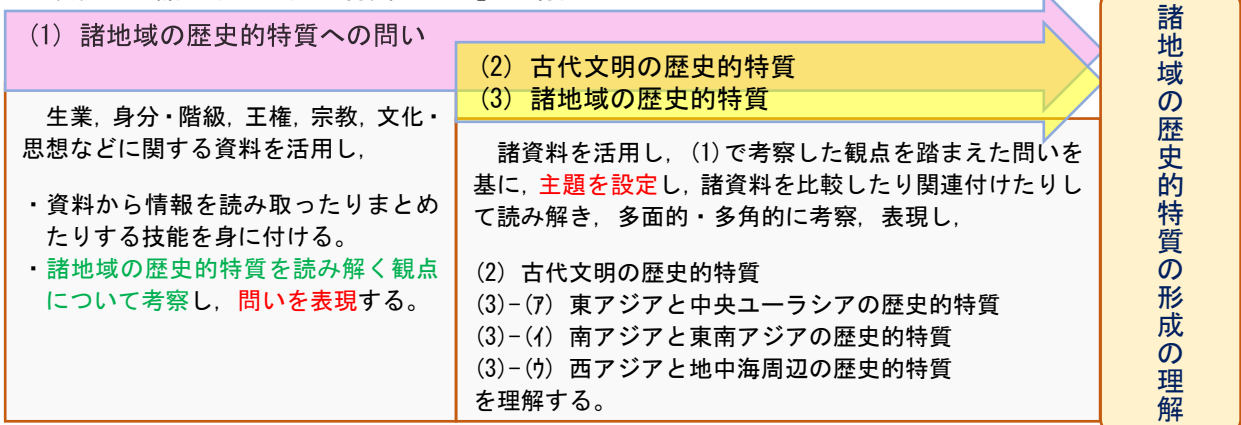
大項目Aは、この科目の導入として位置付けられており、中学校社会科や「歴史総合」の学習を踏まえ、地球環境と人類の歴史との関わりや身の回りの諸事象と歴史との関わりを考察し、世界史学習の意味や意義を理解するよう内容が構成されています。大項目BからDは、「歴史総合」で学習した「資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能」や「問いを表現する」学習などの成果を踏まえて、世界の歴史の大きな枠組みと展開を構造的に理解できるように、生徒が歴史を捉える切り口である観点に基づいて考察し問いを表現して、課題意識や学習の見通しをもたせつつ、その後の学習が展開する内容となっています。大項目Eは、生徒がこれまでに習得した知識や技能を活用して、歴史的に形成された地球世界の課題を主体的に探究する活動を通して地球世界の課題を理解する内容となっています。

このように、これらの大項目はそれぞれが内容のまとめりであると同時に、相互に関係性をもっており、この順序で学習することになっています。そして、科目全体のまとめとなっているEの(4)の学習が充実するように、年間指導計画に基づいて、内容のつながりに留意した指導計画の作成を行うことが大切です。

2 大項目BからDまでの中項目の構成

大項目BからDについては、世界の歴史の大きな枠組みと展開を、諸地域を軸にその歴史的特質の形成、交流・再編、結合・変容から構造的に理解することをねらいとしています。その際、社会的な事象の歴史的な見方・考え方や資料の取扱いに関する基本的な技能を活用して、生徒が資料から課題を見だし、自ら学習を深めることができるように、それぞれ中項目が設定されており、以下のように結び付いた一連の学習の展開を構成しています。

大項目B「諸地域の歴史的特質の形成」の場合



設定した主題を学習上の課題とするために**問いを設定**し、これを踏まえ、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、多面的・多角的に考察し表現することにより、理解を深める学習となるよう工夫することが大切です。

3 小項目の設定（事項ア「知識及び技能」と事項イ「思考力、判断力、表現力等」の関係）

学習指導要領では、資質・能力の三つの柱に沿って「ア 知識及び技能」と「イ 思考力、判断力、表現力等」に関わる事項が示されています。他の科目と同様にア(ア)とイ(イ)の事項、ア(イ)とイ(イ)の事項、のように、各中項目内で対応する「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の事項が一体となり、それぞれ一つの学習のまとまりを構成しています。このまとまりが「小項目」となります。大項目B、C及びDの中項目(2)、(3)及び(4)の学習は、この小項目から構成されています。

ここでは、大項目Bの中項目(3)のア(ア)とイ(イ)で構成される小項目を例に、解説が示す学習内容と学習過程の構造について示します。

B 「諸地域の歴史的特質の形成」 ← 大項目

(3) 諸地域の歴史的特質 ← 中項目

ア 次のような知識を身に付けること。 ← 「知識及び技能に関わる事項」

(ア) a 秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向などを基に、b 東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解すること。

(イ) ……省略……

(ウ) ……省略……

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ← 「思考力、判断力、表現力等に関わる事項」

(ア) c 東アジアと中央ユーラシアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、d 主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、e 唐の統治体制と社会や文化の特色、唐と近隣諸国との関係、遊牧民の社会の特徴と周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現すること。

(イ) ……省略……

(ウ) ……省略……

アの(ア)とイの(イ)が結び付いて小項目を形成

この小項目の学習に当たっては、ア(ア)の a 秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向などを基に、イ(イ)の c 東アジアと中央ユーラシアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目して、教師が例えば、「東アジアや中央ユーラシアの社会や文化の特徴」などの d 主題を設定し、その主題を学習上の課題とするために、「東アジアや中央ユーラシアは、社会、宗教、文化・思想の面でどのような特徴をもっていたのだろうか」など、この小項目全体に関わる問いを設定します。

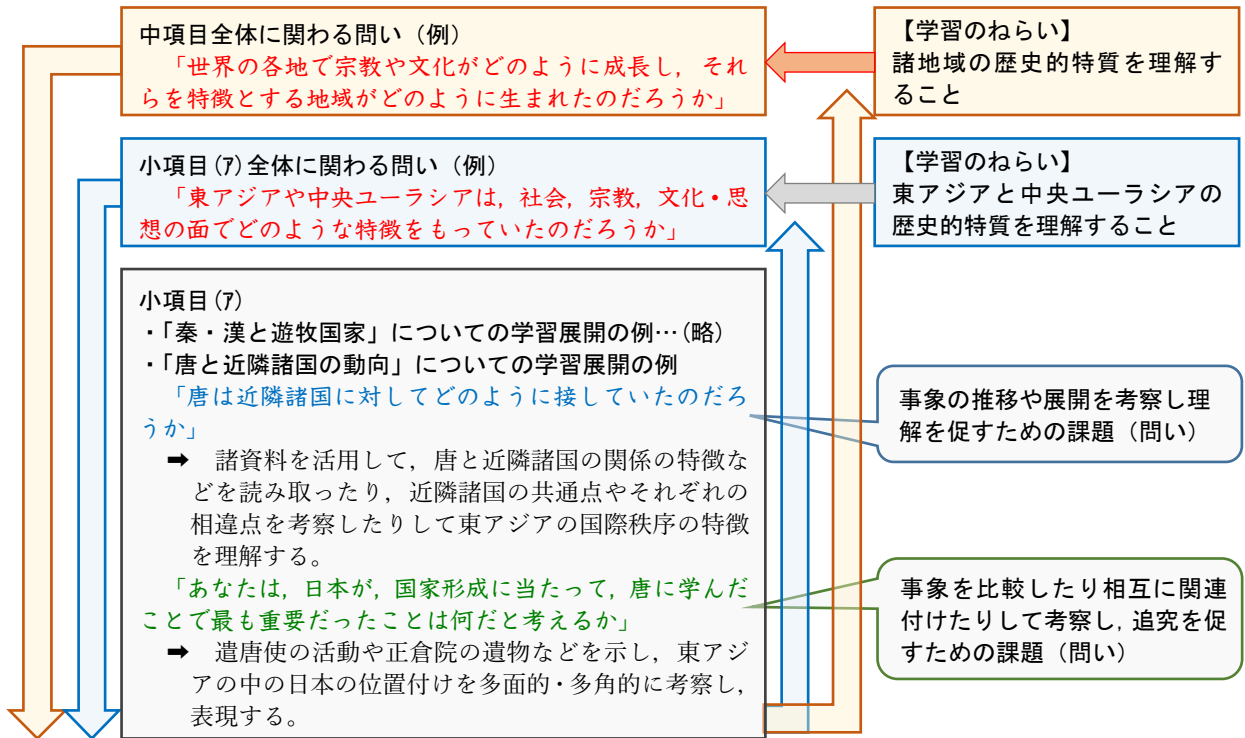
この「小項目全体に関わる問い」を踏まえて、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、e 唐の統治体制と社会や文化の特色、唐と近隣諸国との関係、遊牧民の社会の特徴と周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察したり表現したりすることにより、ア(ア)の b 東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解することに至る学習の過程が考えられます。

4 事象に関わる学習と問いの構造

解説では、aの事象を学習する際に、主題を基にした「小項目全体に関わる問い」を踏まえ、「事象の推移や展開を考察し理解を促すための課題（問い）」を設定し、さらに「事象を比較したり相互に関連付けたりして考察し、追究を促すための課題（問い）」を設定して考察の結果を表現するなど、段階的に課題（問い）を設定する学習を例として示しています。以下はaに示された事象のうち、「唐と近隣諸国の動向」について、課題（問い）を設定した学習の例です。

なお、解説に示された問いの例は、あくまで参考であり、教師が、生徒の興味・関心や学校、地域の実態等に留意し、様々な状況に応じた工夫をすることが大切です。

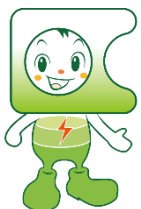
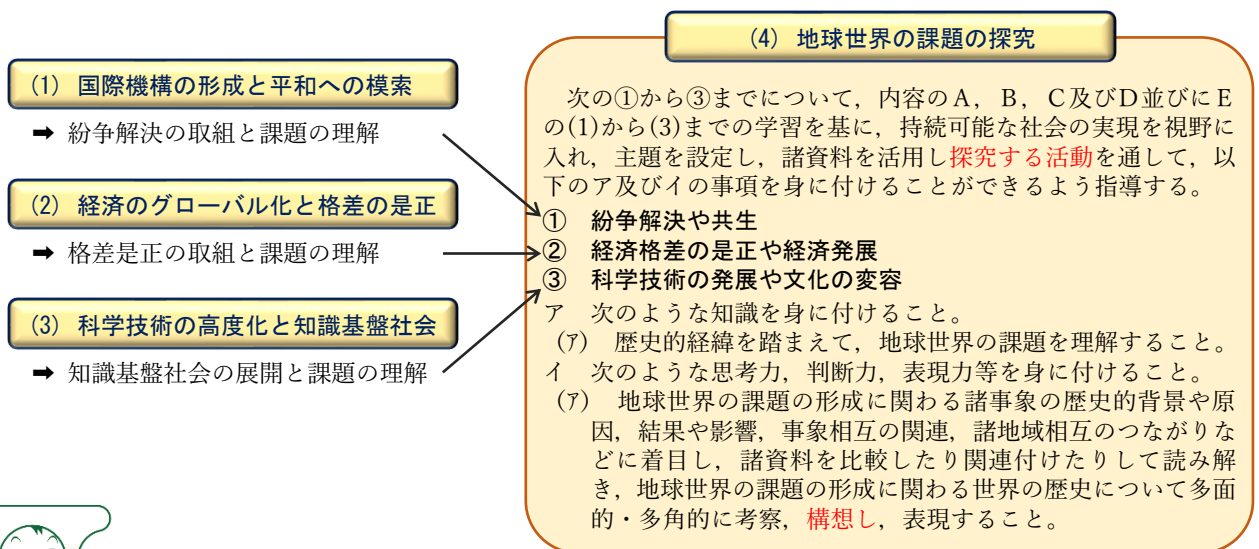
大項目B「諸地域の歴史的特質の形成」－中項目(3)「諸地域の歴史的特質」－小項目(7)



このように「世界史探究」では、学習全般において課題（問い）を設定し追究する学習が求められます。この学習において重要であるのは、第一に課題（問い）の設定であり、第二に課題（問い）の追究を促す資料の活用です。解説には、それぞれに関する参考例が示されています。

5 大項目E「地球世界の課題」の構造

内容のEについては、この科目の学習全体を視野に入れた(4)の主題を探究する活動が充実するよう(1)、(2)及び(3)の主題を設定し、多元的な相互依存関係を深める現代世界の特質を考察できるよう指導を工夫すること。



主題を探究する学習を通じて、歴史を学ぶ意義をより深く理解させつつ、人間尊重の精神に基づく真の国際理解を深め、日本の果たしうる役割や世界各国の相互協力の必要性について理解させることが大切です。

Q12 他教科等との関連について留意することを教えてください。

A12 地理歴史科の目標を達成するため、公民科等との関連を図るとともに、地理歴史科に属する科目相互の関連に留意する必要があります。また、学校における道德教育は、人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことによりその充実を図るものとしているため、地理歴史科に属する科目の特質に応じて、適切な指導を行う必要があります。

◆ 地理歴史科に属する科目相互の関連、公民科等との関連について

「地理総合」、「地理探究」の学習に当たっては、いずれも「学習過程では取り扱う内容の歴史的背景を踏まえること」（内容の取扱い）が、「歴史総合」の学習に当たっては、「歴史に関わる諸事象については、地理的条件と関連付けて扱う」（内容の取扱い）ことが求められています。また、「日本史探究」の学習に当たっては、「地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解する」（目標）ことや、「我が国の歴史と文化について各時代の国際環境や地理的条件などと関連付け」（内容の取扱い）ることが求められ、「世界史探究」の学習に当たっては、「地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する」（目標）ことや、「歴史に関わる諸事象については、地理的条件と関連付けて扱う」（内容の取扱い）ことが求められています。このように地理歴史科を構成する科目として相互の関連を図ることの必要性が強調されています。

さらに、地理歴史科は中学校社会科の学習の成果の上に立っており、公民科の各科目と相互に関連する部分が多いことなどの点も考慮して、指導計画を作成するよう留意することも大切です。

◆ 道德教育との関連について

高等学校における道德教育については、各教科・科目等の特質に応じ、学校の教育活動全体を通じて生徒が人間としての在り方生き方を主体的に探求し、豊かな自己形成ができるよう、適切な指導を行うことが求められています。

このため、各教科・科目においても目標や内容、配慮事項の中に関連する記述があり、地歴公民科との関連をみると、特に次のような点を指摘することができます。

地理歴史科においては、現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して、多面的・多角的に考察し理解を深めることは、それらを通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることなどにつながるものである。

地理歴史科

(高等学校)

Q13 移行期間の学習指導はどのようにすればよいですか。

A13 地理歴史科に関しては、新学習指導要領の「領土（領海，領空を含む）」に関する規定が適用されます。

平成 31 年 4 月 1 日から新学習指導要領が適用されるまでの間が移行期間になります。

新学習指導要領への円滑な移行のため、教科書等の対応を要しない場合など可能な範囲で、新学習指導要領による取組を推進していく必要があります。特に、「知識及び技能」、「思考力，判断力，表現力等」、「学びに向かう力，人間性等」をバランスよく育成することを目指す新学習指導要領の趣旨を十分に踏まえて指導することが必要です。

なお、地理歴史科の学習指導に当たっては、次のとおり新学習指導要領の規定が適用されます。

科 目	内 容	適用する新学習指導要領の規定
日本史 A	(2) 近代の日本と世界 ア 近代国家の形成と国際関係の推移	「歴史総合」の 3 の (2) のウのうち領土の画定に関する規定をそれぞれ適用する。 …日本の国民国家の形成などの学習において、領土の画定などを取り扱うようにすること。その際、北方領土に触れるとともに、竹島、尖閣諸島の編入についても触れること。…
日本史 B	(4) 近代日本の形成と世界 ア 明治維新と立憲体制の成立	「日本史探究」の 3 の (2) のクのうち領土の画定に関する規定をそれぞれ適用する。 …明治維新や国民国家の形成などの学習において、領土の画定などを取り扱うようにすること。その際、北方領土に触れるとともに、竹島、尖閣諸島の編入についても触れること。…
地 理 A	(1) 現代世界の特色と諸課題の地理的考察 ア 地球儀や地図からとらえる現代世界	「地理総合」の 3 の (2) のアの (ア) のうち我が国の領域をめぐる問題に関する規定を適用する。 …「日本の位置と領域」については、世界的視野から日本の位置を捉えるとともに、日本の領域をめぐる問題にも触れること。また、我が国の海洋国家としての特色と海洋の果たす役割を取り上げるとともに、竹島や北方領土が我が国の固有の領土であることなど、我が国の領域をめぐる問題も取り上げるようにすること。その際、尖閣諸島については我が国の固有の領土であり、領土問題は存在しないことも扱うこと。…
地 理 B	(2) 現代世界の系統地理的考察 エ 生活文化，民族・宗教	「地理探究」の 3 の (2) のアの (オ) のうち我が国の領域をめぐる問題に関する規定を適用する。 …「領土問題の現状や要因，解決に向けた取組」については、それを扱う際に日本の領土問題にも触れること。また、我が国の海洋国家としての特色と海洋の果たす役割を取り上げるとともに、竹島や北方領土が我が国の固有の領土であることなど、我が国の領域をめぐる問題も取り上げるようにすること。その際、尖閣諸島については我が国の固有の領土であり、領土問題は存在しないことも扱うこと。